

南ア月報
(2019年10月)

【内政】

- 野党民主同盟（DA）マイマネ党首の辞任

【外政】

- ブハリ・ナイジェリア大統領の南ア訪問
- ラマポーザ大統領の英国訪問
- パンドール国際関係・協力大臣のカタール及びイラン訪問
- 王毅中国外交部長の南ア訪問
- ラマポーザ大統領のロシア訪問
- パンドール国際関係・協力大臣のアゼルバイジャン訪問
- マブーザ副大統領の中国訪問

【経済】

<経済指標>

- 中期財政政策演説（MTBPS）
- 失業率
- 消費者物価指数（CPI）
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高

<出来事>

- Moody's が南ア経済見通しをネガティブに変更、格付けは投資適格級に据え置き

【広報・文化】

- ラグビーW杯関連広報行事の開催
- 明治日本の発展史及びアジア・アフリカにおける開発をテーマとした講演会の実施

【警備】

- ヨハネスブルグCBDの浄化作戦

1 内政

●野党民主同盟（DA）マイマネ党首の辞任

23日、民主同盟（DA、国政野党第一党）マイマネ党首（Mr. Mmusi MAIMANE）が記者会見し、辞意を表明した。記者会見の中で、マイマネ党首は、DAは「One South Africa for All」を構築するというビジョンを前進させるのに最適な手段ではないという結論に達した。2019年5月の総選挙でDAが支持を落としたことにつき、マイマネ党首をはじめとする党執行部の去就が注目されていた。後任の任命、さらには党の行方が注目される。

2 外政

●ブハリ・ナイジェリア大統領の南ア訪問

2日から4日にかけて、ラマポーザ大統領の招待により、ブハリ・ナイジェリア大統領が南アを訪問した。高等二国間委員会（BNC）の第1回会合を実施した。両首脳は、南アにおけるナイジェリア人を含む外国人に対する攻撃及び南ア人に対する報復措置を非難するとともに、これらの攻撃の再発を阻止するために必要なあらゆる措置を講じることを表明した。

●ラマポーザ大統領の英国訪問

15日及び16日、ラマポーザ大統領は英国を実務訪問し、ヌチャベニ中小企業開発大臣及びジョナス大統領投資特別特使が同行した。ラマポーザ大統領は、16日に行われた第6回ファイナンシャル・タイムズ・アフリカサミットで基調講演を行ったほか、南アへの新たな投資の誘致を目的として、投資家及びビジネスリーダーとの会談を行った。

●パンドール国際関係・協力大臣のカタール及びイラン訪問

15日及び16日、パンドール国際関係・協力大臣はカタール及びイランを実務訪問した。カタールでは、ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニー副首相兼外務大臣と二国間会談を行い、第5回南ア・カタール二国間協議及び11月に南アでラマポーザ大統領が主催する投資会議について議論を行った。イランでは、モハンマド・ジャヴァード・ザリーフ外務大臣と共に第14回南ア・イラン協力委員会閣僚会合を開催した。

●王毅中国外交部長の南ア訪問

18日、中国の王毅（WANG Yi）國務委員兼外交部長は、ダーバンを訪問し、パンドール国際関係・協力大臣と二国間会談を行うとともに、ラマポーザ大統領を表敬訪問した。ラマポーザ大統領への表敬において、王部長より、習国家主席からのグリーティング・メッセージを伝達するとともに、両国首脳は何度も会い、一連の重要なコンセンサスに合意してきたことに言及しつつ、二国間関係の一層の連携強化の重要性につき述べた。これに対し、ラマポーザ大統領より、南アは中国との包括的かつ戦略的パートナーシップを重視している旨述べるとともに、「一帯一路イニシアティブ（BRI）」と南アの開発との連携を通じて、両国間の関係を新たな次元に引き上げていきたい旨述べた。

●ラマポーザ大統領のロシア訪問

23日及び24日、ラマポーザ大統領は初めて開催されるロシア・サミットに出席するため、ロシアのソチを訪問し、パンドール国際関係・協力大臣、ゴードン公共企業大臣、ドロドロ国家安全保障大臣及びヌダベニ＝アブラハムス通信大臣が同行した。ラマポーザ大統領は、首脳会合に出席したプーチン大統領及びその他の国家元首と二国間会談を行ったほか、初のロシア・アフリカ経済フォーラムに出席した。

●パンドール国際関係・協力大臣のアゼルバイジャン訪問

25日及び26日、パンドール国際関係・協力大臣は非同盟運動（NAM）首脳会議出席の為、アゼルバイジャンを訪問し、ボータス国際関係・協力副大臣が同行した。

●マブーザ副大統領の中国訪問

28日、マブーザ副大統領は、31日から11月3日にかけて同副大統領と王岐山・中国国家副主席をヘッドとして開催される第7回南ア・中国二国間委員会に出席するため、

訪中した。

3 経済

<経済指標>

●中期財政政策演説 (MTBPS)

30日、ムボウェニ財務大臣は2019年度中期財政政策演説 (Medium Term Budget Policy Statement、以下 MTBPS) を行ったところ、概要次の通り。本演説は、中期的な経済見通しを発表するものであり、経済成長、税収の見通し、Eskom への対応が今後3年間の財政リスクの鍵を握ると発表した。MTBPS のポイントは次のとおり。

(1) 2019年の GDP 成長率は、当初の1.5%から0.5%に下方修正。これは、総投資、輸出、世界的成長スピードの低下が反映されている。その後、2020年には1.2%、2021年は1.6%、2022年は1.7%へ回復する見込み。

(2) 本年度の財政赤字 (対 GDP 比) は、3.4%の見通し。また、今後3年間は3.5%で推移する見込み。累積財政赤字 (対 GDP 比) は2023年までに71.3%にまでふくれあがる見込み。債務の見通しを安定させるために、公務員の賃金の見直しが求められる。

(3) 低成長率、失業率の高さ、賃金・ボーナスの安さ、利益率の悪い貿易、弱い家計消費などが反映され、本年度は525億ランドの歳入不足の見込み。

(4) 今後3年間の中期歳出は合計で6兆3千億ランドと見積もられ、その内、48%は社会保障、教育・文化に当てられる。各年の予算は平均して6.3%増の見込み。

(5) 経済活性化を図るために、短・中期的改革を施行する。短期的改革として観光産業のサポート、小規模発電へのライセンス供与、テレコミュニケーション産業の拡大、スタートアップの手続き簡素化を施行する。また、交通、水、通信セクター、産業および貿易政策においては中期的改革に着手する。民間セクターと共同し投資を強化する。官民パートナーシップの承認プロセス、プロジェクト実施期間削減の見直しを図る。

●失業率

南ア統計局は2019年第3四半期の失業率を29.1%と発表。第2四半期よりも0.1%悪化し、2008年の調査以来、最も高い数字となった。その中でも、15歳から24歳の若年層の失業率は58.2%と非常に高い。前年同期比と比較して、雇用減少は5千人であり、建設で16万3千人、公共事業で2万3千人、交通で2万1千人の雇用が減少した。他方で、貿易で10万3千人、製造業で4万1千人の雇用が増加した。

●消費者物価指数 (CPI)

9月の消費者物価指数 (CPI) は、前月に比べ0.3%上昇した。年間消費者物価インフレーション率は前年同月に比べ4.1%上昇。(南ア統計局、10月23日)

●為替レート

2019年10月31日付 (南ア準備銀行)

7.1627ランド/円

15.0719 ランド/米ドル

16.8149ランド/ユーロ

●製造業生産高

8月の製造業は、前年同月比1.8%減。主なマイナス要因は、鉄及び銅、非鉄金属、金属及び機械製品で7.0%減。主なプラス要因は、食品、飲料品で3.5%増。季節調整後

生産高は、前月比1.3%減。また季節調整後生産高（6～8月）は3～5月に比べ1.7%減で、製造業10部門中7部門で生産高減となった。（南ア統計局、10月10日）

●鉱業生産高

8月の鉱業生産高は、前年同月比3.2%減。主な要因は、PGMsで12.5%減、ダイヤモンドで29.8%減。季節調整後生産高は前月比0.3%減、また季節調整後生産高（6～8月）は3～5月に比べ1.3%増となった。（南ア統計局、9月12日）

<出来事>

●Moody'sが南ア経済見通しをネガティブに変更、格付けは投資適格級に据え置き

Moody'sは南アの格付けを投資適格級（Baa3）に据え置き、経済の見通しを「安定」から「ネガティブ」に変更した。高い失業率、所得格差、社会的及び政治的課題は南アの長年の問題であり、経済成長、財政赤字を埋めるための政府の計画に対する障害は予想以上に深刻である。累積財政赤字は、2022年までにGDPの71%を超えるまでに膨らむと予想され、現在の格付けは、政府が負債の増加を止め、それを最終的には減らす戦略を迅速に開発する能力にかかっているが、今のところその兆しはない。Moody'sが南アをジャンク級にすると、国の財政に大きな打撃を与え、ランドが更に弱くなり、燃料価格、輸入電子機器や機械の値上がり、またトウモロコシや小麦価格にも影響を及ぼす。（Fin24、11月1日）

4. 広報・文化

●ラグビーW杯関連広報行事の開催

ラグビーワールドカップ2019日本大会関連広報行事として、9月から引き続き、4日、8日、20日及び27日に当館多目的ホールにおいて、南アフリカ代表戦関連行事をそれぞれ実施した。会場では大会や試合開催地である静岡県、神戸市、東京都及び横浜市の紹介を行うとともに、寿司や天ぷらといった日本食や日本産飲料を提供した。

参加者は、ラグビーW杯における南アフリカ代表の躍進を楽しむとともに、開催地である日本の魅力を味わい、当館館員らに日本で訪れるべき場所について尋ねるなどしていた。

●明治日本の発展史及びアジア・アフリカにおける開発をテーマとした講演会の実施

30日、当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、当地訪問中の大塚啓二郎神戸大学社会システムイノベーションセンター特命教授及び橋野知子同大学大学院経済学研究科教授による講演会を、プレトリア大学において実施した。講演会では、橋野教授から、明治日本の教育と西洋からの学び及び絹織物産業の発展に関する報告があった後、参加者から、産業発展に教育が与える影響等に関する質問がなされた。次いで、大塚教授から、アジア及びアフリカにおける産業発展の事例紹介とともに、カイゼンが産業発展に与える影響や南アにおける自動車産業の実情等に関する報告があった後、参加者から南ア産業の抱える問題への処方箋に関する質問等がなされ、活発な議論が行われた。

5 警備

●ヨハネスブルグCBDの浄化作戦

16日、警察はヨハネスブルグCBDのビルにおいて偽ブランド品の取引に対する捜索差押を実施した。この捜索差押では、偽ブランドを取り扱う者が逮捕され、900万ランド相当の偽ブランド品が押収された。押収物には、国内外のブランドTシャツ、ズボン、ランニングシューズ、ベルト等があり、7階建てのビルの各階に偽ラベル等とともに保管

されていた。それらの押収物は、今後、商標権を有する会社により、正式鑑定が行われる。
警察や関係機関によるヨハネスブルグCBDの浄化作戦は今後も続けられる。